



ARGONAUTES

かわら版

巻頭言

附属図書館では、従前から図書館報として、ARGONAUTES on WEBで広報してきましたが、必ずしも学生の皆さん、先生方に浸透するまでには至らなかったようです。できる限り多くの方に図書館のサービスや現状について、手にとって読んでいただけるようリーフレット形式で「ARGONAUTESかわら版」として配布することにいたしました。

内容も一新し、図書館の利用案内やトピックス、書評を中心に広くお知らせする所存です。

トピックスの都度刊行する不定期版となりそうですが、これまであまり利用されていない便利な

～書物逍遥～

サービスや新しいサービスなどで紙面を賑わせ、減少の一途をたどる利用状況に歯止めをかけたいと図書館一同希望している次第です。

学生諸君の自学・自習や教養・趣味など多様なニーズへの対応、また、先生方の教育・研究に向けた情報の発信・提供を進め大学附属施設の核としてサービスの多様化に対応していくよう努めてまいりますので、利用者の皆様方の一層の活用とご支援・ご理解を賜りますようお願い申し上げます。

附属図書館長 石井保廣



わが著書を語る

田島松二・末松信子編『英語史研究ノート』（開文社出版,2008年12月刊,x+428頁）

国の内外を問わず、英語史研究・教育の衰退を憂える声が聞かれるようになって久しい。時代の趨勢と言うべきものもあり、個々人の力ではいかんともしがたい状況もある。しかし不満をかこつばかりではなにもうまれない。なにかやろうではないかということで、筆者が発案、発足させたのが「英語史研究会」という全国的な組織である。英語の実証的、歴史的研究の推進、英語史教育の活性化を目指したものである。筆者の前任校である九州大学を拠点として、1998年秋に活動を開始、年2回の大会開催と同じく年2回の会報発行をおこなってきた。（2006年以降は、拠点を京都大学に移し、新たな形で継続されている。）

本書は、その活動の記録ともいえるべき会報第1号（1999年5月）～14号（2005年12月）に掲載された記事の一部を再編集した

英文学科 教授 田島松二

ものである。新稿も数編加えている。とはいっても、専門家向け論文集ではない。内容は、英語史研究のありようを初心者にもわかるように披露していただいた先達による特別寄稿6篇をはじめ、英語史の諸相をさまざまな角度から論じた研究ノート、随想、関連図書の紹介等々、短くとも有意義、有益なものばかりである。経済学者と科学史家による異色の特別寄稿も収録されている。前者は、『資本論』中の引用句「人間は道具を作る動物だ」というベンジャミン・フランクリンの人間定義にマルクスが接した経路探しの旅を綴ったものであり、後者は中世ラテン古文書と取り組んだ折の悪戦苦闘ぶりを語ったものである。

多少とも英語の歴史に関心のある方であれば、気軽に読んで楽しんでいただけるものが多数含まれていると確信している。

目次：

巻頭言	1
わが著書を語る	1
図書館活動	2
遊及入力事業	2
プリンター設置	3
紀要の電子化	3
図書館2号館1階書庫	3
図書館の取り組み	4
図書館活用講座	4
編集後記	4

図書館活動 5年間の推移(2003～2007)

－利用の減少に歯止めを－

まず、この統計は、機械処理をしている関係上、コンピュータシステムの範疇外にある初等教育科や大学院図書室などは計上されていないことを付け加えておく。

右のグラフ(図1)の入館者数から見ていこう。2003年度は、162,949人だった。2005年度に入館者数が一度、175,426人となっているが、2007年度は、2003年度に比べて、36,425人減った126,524人となっている。

貸出冊数は、入館者数がピークとなった2005年を除いて、それ以降減っていくのと同様に、2003年度は、17,586冊だったものが、2007年度では、2447冊減った15,139冊となっている。学生数は、2003年度より人数の増減があまりみえないにもかかわらず、貸出冊数が減少の一途をたどっている。

相互協力は、2004年より本格的に開始しているが、徐々に先生方や、学生からの認知度が高まり、2005年には別府大学側が他大学に対して申し込んだ複写依頼に関しては、1,255件にも及んでいる。

入館者数と貸出冊数の減少については、利用者の絶対数が減ったこともあるが、希望する本が見当たらないという声を聞く。限られた予算で魅力ある図書を備えていくということに限界があり蔵書構成方針などを整備し、予算の確保と有効活用を図る必要がある。また、相互利用では、若干の増減があるものの全体的には増加の傾向を示している。

増加の要因は、インターネット上での依頼・受付が容易になってきたこと、また、減少の要因は、国立情報学研究所(NII)のCiNiiや他大学で、PDF化されインターネット上で原文の提供が普及してきたことにより、利用者自身が直接情報を入手できるようになってきたことが考えられる。



『教職関連コーナー』が2階閲覧室にできました。教職関連の図書や小学校・中学校・高校の教科書が置かれています。ぜひ、ご覧下さい。

特に、図書館1階に配置したプリンターによる印刷を行うことができるため、学生が頻繁に利用している姿が見受けられる。本学でも今年度から紀要類の電子化(PDF)を開始し、インターネットで公開を始めた。(テスト版サーバ: <http://bud.beppu-u.ac.jp>)

図書館では、使いやすい図書館環境と利用者が必要とする資料を揃える方策を検討し、学習・教育・研究支援機関の中心として努力していきたいと考えている。

それには、学生諸君や先生方のご理解とお力添えを

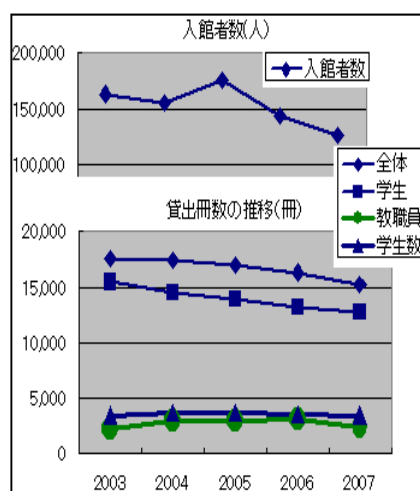


図 1

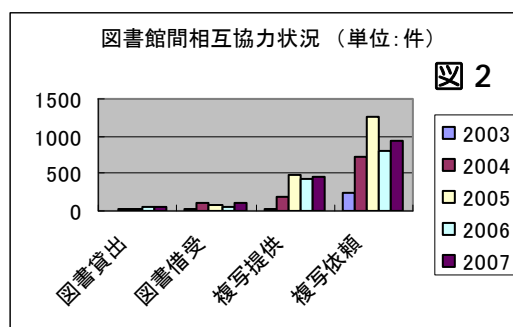


図 2

遡及入力事業を開始しました

本学では、コンピュータ導入前の図書や若干の寄贈図書が登録されずに残っており、オンラインの蔵書検索(OPAC)では、探すことができません。このたび、私立大学では初めて、国立情報学研究所の大規模遡及入力支援(事業

A)に採用され4万冊の未登録図書の遡及入力が始まりました。

これに並行して、図書館員全員で同様の理由で未登録の図書の登録や標準の規格ではない古い時代のコンピュータ目録更新などの入力を進めています。

プリンター設置～1階でプリントアウトができます～

1階に課金式のプリンターを設置しています。

ホームページ、PDFのコピーは勿論、今月よりWord、Excel、Power Pointが、それぞれ使えるようになりました。フラッシュメモリを持ってきたら、各Viewerを開くとプリントアウトが可能になります。

完成した状態での印刷だけで、編集は一切できません。また、白黒印刷となっていますので、ご注意ください。A4サイズで一枚10円になっています。(2階、3階のOPAC専用パソコンにも対応しています。)

<プリンターの使い方>

- ①ファイル(F)より印刷(P)をクリック
- ②設定を行ったのち、OKをクリック
- ③パスワード入力画面が出るので、パスワードを入力(その画面のみに対応)
- ④プリンターの横にあるパソコンに先ほどのパスワードを入力
- ⑤お金(1枚10円)を入れて、プリントアウト



パスワード用パソコン プリンター

～ILLについて(お願い)～

申込みが少しずつ増えていきます。この時期は、他大学からの依頼も増えますので、修士論文、卒業論文を書く学生は、早めに申込みを行って下さい。

必ずOPACで検索を行って自館所蔵のものを申し込まないようにしてください。



紀要の電子化を開始しました

最近では、紀要や研究報告などをオンラインで読むことができる「機関リポジトリ」が、80以上の国公立大学で始まりました。

本学でも司書課程の学習とタイアップして、電子化を開始しました。

特に、本年度は「国立情報学研究所

最先端学術情報基盤の構築推進委託事業」に採択され、本年中に「別府大学紀要(別府女子大学紀要を含む)」が提供できる予定です。

試行サーバー

<http://bud.beppu-u.ac.jp>

図書館2号館1階書庫ができました

5月21日に図書館西隣の2号館1階書庫の竣工式がありました。書庫には、杉文庫、黒田文庫や雑誌等が置かれています。貸出はできませんが、閲覧・複写は可能です。閉架書庫のため、職員が取りに行くことになります。OPACで検索して、配置場所が、2号

館1階の際は、①書名 ②請求記号

③資料番号を「利用票」に記入して、

図書館カウンターで職員にお渡しください。



図書館の取り組み

～Workshop～

11/4と11/5に行われました。XooNlps(ズーニプス)を基盤としたリポジトリシステムを広く知っていただくこと、その応用例など開発元の理化学研究所を交えながらワークショップとして、開催したものです。

大学や公立図書館での取り組みについて事例報告と、リポジトリ構築を教育実習に活用したシミュレーションを行い、質疑応答や意見交換を行うと共に、開発経緯やその応用例を具体的に採りあげ、ワークショップとして参加者全員で、それぞれのテーマを展開していきました。

～西日本図書館学会～

ー平成20年度秋季研究発表会ー

12/6に、会員50名、九州女子大学学生25名、別府大学学生が参加して、盛大に行なわれました。当日は、6件の発表があり、図書館からは、川野洋子先生が、「別府大学司書課程における資料特論」として、発表しました。



図書館活用講座を行っています

6月18日に『第2回図書館活用講座』、11月19日に『第3回図書館活用講座』が図書館で行われました。

第2回の参加者は、学部生10名、専攻科2名のあわせて12名、第3回では、教員2名、学部生5名、研修1名のあわせて8名でした。「情報リテラシー2008」の冊子を元に、図書館での資料の探し方、学外の資料の探し方、学外に申し込む際の方法など、基礎的なことを学習していました。

終了後のアンケートより、「これからも使っていきたい」「早速調べたい」「知っていると思ったことが確実となった」などの意見が出されました。他に、もう少し全般的

なことではなく、難しいことを行って欲しかったという意見もあり、その対策として、新しい講座を設けることを構想中です。グループ単位(3～4名)で事前に申し込みをしていただければ、講座を行なうことは可能です。講座に來れなかった方は、ぜひ図書館カウンターにご相談ください。



✎ 編集後記 ✎

かわら版を出そう！とあって、あっという間にクリスマスに近づいてしまいました。図書館の取り組みをこうやってお知らせすることで、学生や教職員、そして、一般の方にもっと図書館を身近なものに感じてもらえれば幸いです。(立花)

別府大学附属図書館

〒874-8501 別府市大字北石垣82

電話0977-66-9633

FAX 0977-66-9632

BEPPU



別府大学附属図書館ホームページ

<http://www.beppu-u.ac.jp/lib/>

携帯版OPAC

